令和４年度

むつあいの教育

１　学校教育目標

「花と泥と太陽の子～睦っ子の育成」

花　礼儀正しくやさしい子…（徳育）
個性あふれ，思いやりのある心豊かな子どもの育成

泥　自然に親しむ元気な子…（体育・食育）
精一杯遊び，よく噛んで食べ心身ともに健康でたくましい子どもの育成

太陽　進んで学びがんばる子…（知育）
自分を表現でき，課題を進んで解決しようとし，
最後まで頑張る子どもの育成

２　学校経営の努力点

○　(1)花（徳育）・泥（体育・食育）・太陽（知育）の教育の調和のもと，「生きる力」を育む質の高い教育の実現に努め，定期的な工夫・改善をする。

(2)確かな学力を育むため，次のことに力を入れその指導と評価，改善に努める。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり及び評価に取り組む。特に評価については，英語教育における評価方法（ＣＡＮ－ＤＯリストを活用した指導と評価）について研究を深める。
- 家庭と連携し，「家庭学習の手引き」等を活用して，家庭学習の定着と充実を図る。
- 特別支援教育の充実を目指し，多様性を認め合える集団づくりを進める。
- １人１台端末等のＩＣＴを効果的に活用していく。

(3)運動や遊び，体力つくりを推進し，体力の向上と運動好きな児童の育成に努める。

(4)健康・安全指導及び食教育を推進し，健康・安全についての実践力と防犯・防災に関する危険回避能力の向上を図る。

(5)豊かな心の育成を目指し，校種を超えた連携や学校の教育活動全体を通じた取組を推進し，いじめを許さない集団づくりと安心できる環境づくり及び不登校児童一人一人に対応した切れ目のない組織的な支援に努める。
　特にＳＯＳの出し方に関する教育（援助希求的態度の育成）に努める。

(6)「特別の教科　道徳」を要として，より良く生きるための資質を養う道徳教育の充実に努める。

(7)地域と共にある学校づくりのため，学校開放日等の教育活動公開日を設定したり，学校だより，学年（学級）だより等を利用したりして，家庭や地域社会へ情報発信に努める。また，町の教育支援センターと連携して，地域学習や体験活動を通じて地域人材の活用を図る。

3　具体的目標

(1)コミュニケーション能力を身につけた子どもを育てる。

⇨・人の話や意見をしっかり聴く姿勢を身につける。
・話し方や発表の基本的な「話形」を教え，系統的な指導を行う。
・活発な話し合い活動を取り入れる。

(2)基本的な生活習慣をしっかり身につけた，心豊かな子どもを育てる。

⇨・あいさつ・返事・言葉遣いなどの望ましい姿を身につけ，その習慣化を図る。
・「早寝，早起き，朝ご飯」を含め，規則正しい生活習慣の定着を図るため，学期毎の生活点検表の取り組みなど，家庭と連携してその充実を図る。
・道徳の授業と学校全般の教育活動を関連させ，子どもの豊かな心の育成とその態度化を図る。

(3)自分の健康と体力に関心を持ち，健康でたくましい子どもを育てる。

⇨・体育の授業や体育行事を通じて自分の体力を知り，体力づくりに意欲的に取り組む態度を身につける。
・体育の授業等を工夫し，一校一実践運動等を通して，運動好きな児童の育成に努める。
・給食の時間を中心として，望ましい食生活のあり方を指導する。
・学校における「新しい生活様式」を踏まえ，うがい，手洗い，歯磨き等の習慣化を図り，自ら適切な行動をとれるよう指導する。

(4)仲間と協力し，主体的に粘り強く活動し，仲間を大切にする子どもを育てる。

⇨・教育活動を通して，児童の交流を図り，仲間を大切にする態度や主体性と協働性とを持って粘り強く取り組む態度を育む。
・一人一人に活躍の場を設定し，成就感・達成感を味わわせ，自己肯定感を育む。
・係や委員会活動，清掃活動を通して，望ましい態度を身につけ，その意義や大切さを指導する。

(5)自分で学習課題を見つけ，自主的・計画的に学習する子どもを育てる。

⇨・「山梨スタンダード」を基本とし，めあての確認や振り返りを重視して，児童一人一人がよく考え，関わり合いながら問題解決する授業に取り組む。
・一人一台端末等のＩＣＴを効果的に活用した授業を計画的に実施する。
・読書の習慣化と読書の質と量の向上を図る。
・学力テストの結果などを参考に，個に応じた指導の充実に努める。

(6)自然を大切にし，地域から学び，地域を愛する子どもを育てる。

⇨・花づくりや作物づくり等，栽培の喜びに直接ふれる活動に取り組む。
・地域の特色を生かした学習活動（田植え，三椏を使用した卒業証書づくり等）を通して，地域を深く学ぶ機会や地域を愛する態度を養う。
・子どもの健全な成長・発達のため，保幼小中の連携を図る。